

---

~ sora ~ in blue sky

sora

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

＼ s o r a ＼ i n b l u e s k y

### 【Nコード】

N 0 4 4 8 J

### 【作者名】

s o r a

### 【あらすじ】

過去に戻れたら…

すべてが思い通りになれば…

誰もが一度でも思うだろう。

それに反して時と現実には冷たく突き刺さる。

## 出会い

「フワァ、よく寝た……」

ゲツ！もうこんな時間！？遅刻、遅刻……！」

「ん？今日は雲一つもないじゃん。こういう時の空って壮大だよな。こんな日は何かいい事があったりして……なんて、んな訳無いか」

グチョツ！！

「ダァーッ！！！まじかよ。誰だよ犬のクソをこんな所にほかりっぱなしの奴は。ハァ……。ついてねえな。」

朝からついて

ないこの男の名前は碧井 空 湊川高校に通う二年生だ。

キンコーンカーンコーン

「おっ？ウイス、空」

「アア……」

「何だ？元気ねえな？悩みならお兄さんが聞くよ？」

空の一応親友？の神谷 陽二

小学校二年生からの付き合いだ。

「別に何もねえよ。」

「そうか、朝から犬のクソ踏んで猪木のマネしてるからついに頭がオカシクなったかと思ってお兄さん心配だったのよ？」

「イヤ、猪木って……」

ていうか見てたのか。」

「一人でダァーツとかシャーとかいいながらクソを草になすりつけてたら誰だって頭のイタイ人だと思っただろ？」

「イタイ人でケッココケッコ」

「コラ、君

達。サッサと教室に入りなさい」

「さて、教室入るか」

「オ、イ、スルーですか。」

二人が教室に入ろうとしたその時、先生の後ろには見た事のない女の子が立っていた。

「おい、空、転校生だぞ」

「あつそ」

「何だその冷たい反応は？怒ってるのか？怒ってるんだな？」

「ハイハイ。さっさと席につくぞ」

この二人はいつもこんなやりとりをしている。

そして二人が席につく頃先生の横にはとても可愛らしいがどこか無愛想で少しゲツソリとした女の子がいた。

「え、今日からこの学校に通う事になった《七瀬 葵》さんです。訳合って年が君達の一つ上だが仲良くするように」

「七瀬です。皆さんよろしくお願いします。」

「では、一番後ろのあの席に座って下さい。」

そう言って先生が指を指した先は空の隣の席だった。

葵が歩きだし空の隣に立ったその瞬間、空の顔をじっと見つめそつと呟いた。

「空？」

「何でおれの名前知ってるの？」

「だって…オデコに…俺の名前は空って書いてある…」

そついうと葵は少し微笑んだ。

「ウソツ？マジで？」

空は慌ててトイレに駆け込もうと勢いよく教室を出て行った。

「コラー碧井！どこに行くんだ！」

先生の怒号が飛び交う中、陽二がこう切り出した。

「アイツ、オデコにおつきく《俺の名前は『空』って書いたまま学校に来たんですよ」

教室が爆笑の渦に包まれる。

その頃、トイレに駆け込んだ空は…

「アノヤロー！見てただけじゃなく、こんなガキみたいな事を何食わぬ顔して何事も無かったかのように振る舞いやがって！」

「…許さん」

慌てて額の落書きを消そうとするが中々消えない。

「消えねえ。油性で書きやがったな。ふざけやがって」

消えた事を確認し、急いで教室に戻る。

「陽二……！！水性ならまだしも油性で書きやがって……！！」

「やあ！お帰り！」俺の名前は《空》さん

「お前にも同じ事してやる……！！」

その状況を見ていてシビレを切らした先生が一言。

「二人とも廊下に立ってなさい！」

『ハイ』

二人は声を揃えてこう言った。

そして、二人は廊下に立った後も。

「お前のせいだぞ」

「カワイイ子供のイタズラだろ？許してやれよ。」

「許すとも思ってたのか。」

この二人のやりとりは教室にまで大きく響き渡った。

「廊下の二人！ウルサイ！！」

『ハイッ』

そして放課になり二人が教室に戻ると葵が興味深そうな顔で二人に話し掛けてきた。

「ねえ？二人っていつもこんな感じなの？」

「そだよー！葵ちゃんてカワイイよね？ちなみに俺は陽二！神谷陽二っていいです！よろしくね。」

あまりに軽い態度で接してくる陽二に少し引きぎみの葵だった。

「よ、よろしく…」

その葵の様子を感じ取った空は。

「引いてんだろ！ごめんね。えーと、葵ちゃんだっけ？こいつ誰に對してもこんなだから悪く思わないでね。」

「そうなんだ？空君もこんな感じなの？」

「ちゃっかり名前覚えられてるし！うらやましいねー！こいつはいつも空を眺めて独り言いつてる冷めた頭のイタイ子だよ！」

「二人は仲いいんだね」

「親友だからね！」

自信をもって言う陽二に対して空は冷めた眼差しでこう言った。

「そう思ってるのはコイツだけ……」

「ほら！冷めてるでしょ？」

「アハハ。ホントだね！ねえ、空君は空が好きなの？」

「まあ、一応……」

そこで陽二がツツコム。

「空だけに空が好き。」

辺りは静まり返った……

しばらく談笑した後に陽二は年が一つ上の葵に対してまた軽い態度で聞いた。

「葵ちゃんは何で年が一つ上なの？もしかして悪い子なのかな？」

軽い態度でそんな失礼な事を聞く陽二に対して空は少し怒りぎみに言った。

「おい！陽二！」



しかし葵は微笑みながら

「いいよ、空君。別に隠すつもりないから。」

葵は少し悲しそうな顔で切り出した。

「実は私、病気なんだ…。そのせいで小さい頃から入退院を繰り返してたの。だけど高校くらいは出ときたいなと思ってたんだけど、去年長い間入院しちゃってさ…。それでまた二年生やる事になったの。あつ！でも、もう大分良くなったから心配しないでね！」

突然 陽二が泣きそうな顔で

「俺達がついてるから頑張ろうな！！」

「ありがと…陽二君。」

この時、この出会いから運命の歯車が大きく揺れ動き、崩れ落ちるとはまだ誰も知らない…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0448j/>

---

~ sora ~ in blue sky

2011年1月15日20時41分発行